

生涯学習課 NEWSLETTER



福島県文化スポーツ局 生涯学習課

TEL 024 - 521 - 7404

fax 024 - 521 - 5677

E-mail shougaigakushuu@pref.fukushima.lg.jp

NO,10 R3,19

ニューズレターの概要

このニューズレターは、平成27年度に開催された「全国生涯学習ネットワークフォーラム」の後継事業として、震災からの復旧・復興や地域課題に取り組んでいる県内の関係者等の情報を共有し「学びをひろげ、つなげる、いかす」ため、年に2回発行するものです。

また、皆様方からも、日常的な取り組みや様々な企画のもと実施されたイベント等、生涯学習に関する情報ならどんなものでも結構です。多種多様な情報をぜひ当課までお寄せください。

今後も、互いに情報を共有し合い、継続的な取り組みが推進されるよう積極的につながっていきましょう。

コミュニティと生きがい を再構築するために

今回、取材をしてきた「いいいたの宝探しをしよう会」は、東日本震災や原子力災害の影響により避難を余儀なくされた飯館村の住民が、ふるさとの魅力を再発見し、住民同士のコミュニティの再構築と生きがいづくりの実現を目指し、取り組んでいる団体である。

その様々な取組について、代表である菅野クニさんから話を伺った。



ふるさと飯館で自分らしく 生きていくために

東日本大震災・原子力災害の影響で避難をしていたが、避難解除と共に帰村してくる住民が元気に暮らし、地域を盛り上げていくためには何が必要なのかを考え、まず始めに設立した団体が、「ふるさと飯館で自分らしく」生きよう会である。「誰かが帰村しているのかも分からない状態でした。どうしたら住民が交流することができるか。また、帰

村の宝を考えるきっかけに 飯館村の住民がふるさとの魅力を



飯館村交流ふれ愛館
「文化祭出展作品」

村をしていない住民との交流はどうすればよいかを考えたと結果でした。」と当時の状況を菅野さんは語る。「当時は、気軽に集まることのできるように自宅を活動場所にすることも多かった。また、地域の声に耳を傾けることも大切である」と語る菅野さん。

これまで、趣味等を通じた講座(編み物、笑い文字)、心と体の健康づくり、帰村者と飯館村出身者との交流、飯館村以外の方々との交流など数多くの取組を実践している。

今年度実施した「ピラティス(心と体の健康づくり)」は、コロナウイルス感染症の影響で六月からの実施になったが、飯館村交流ふれ愛館を会場として、十二月までに、延べ百九十七人の住民が参加している。

また、「笑い文字教室(趣味等を通じた生きがいづくり)」では、作成した作品を文化祭に出展したり、年賀状を作成したりした。

「今回のような企画を主催できるような人材の育成に取り組みたい。地域を支え、元気づけていくことができる人材の育成が大切である。そのために、飯館村の良さを発信しながら、生涯学習や生涯教育の支援に携わっていききたい。」と菅野さんは、語ってくれた。

飯館村のコミュニティの構築のために、地域の良さを再発見し、地域の活性化のために取り組む菅野さんを取材することができた。



いいいたの牛肉を使った
創作料理教室&ライブ

を再発見することが大切だと考える菅野さん。村の特産品飯館牛を活用した住民同士のコミュニティの再構築にも取り組む。その団体が、「いいいたの宝探しをしよう会」である。今年度は、飯館牛の創作料理教室、試食品評会、音楽と紙芝居のライブを十一月に行った。試食品評会には四十人が参加した。ニコニコ農園を経営している菅野さん。農園の野菜も食材に使い、県内でレストランを営んでいるシェフ、住民の方々に協力していただきながら開催した。

地域に密着した

公民館活動を目指して

今回、取材をしてきた「郡山市立日和田公民館」は、東北本線日和田駅の目と鼻の先にあり、地域住民の学習活動の拠点として、様々な事業を実践している。

運営方針に、社会的な地域課題への取組や学習機会の充実を図り、地域に密着した公民館活動を展開していくことを掲げている。

そんな日和田公民館の様々な取組について、館長の井上まゆみさんからお話を伺った。



郷土の歴史を活かした

学習機会の充実のために

日和田公民館がある日和田地区には、史跡や伝説が多数存在している。井上さんは、地元の貴重な歴史を伝承していくことは、とても大切なことであると考えていた。そして、主事として歴史の講座を担当していた当時からこの事業は始まった。

「受講する皆さんが笑顔で楽しみながら、地域の歴史を学ぶことができする方法は何だろうかと考えたのが始

まりなんです。」と語る。

日和田町には、地域の歴史を研究している「日和田郷土歴史会」がある。会員の皆さんが長年にわたり研究し、蓄積してきた。日和田公民館では、その方々を講師として招き、地域の歴史遺産を「カルタ」にする講座を開設した。そのカルタが、「日和田郷土カルタ」である。



日和田公民館講座作成「日和田郷土カルタ」

カルタを完成するまでには、様々な苦労もあったと教えてくれた。カルタ作成のために、受講生、郷土史会の皆さんと一緒に史跡がある所まで直接足を運び、見て、感じてもらいながら「句」を作っていたとのこと。また、このカルタの句や絵から誤解を招くことがないように、引用した文献などの解説書をつけるなどの工夫もしたと教えてくれた。

復活！

高倉人形・人形浄瑠璃

日和田公民館には、「福島県指定重要有形民俗文化財」（高倉人形）が保存されている。今から二百年ほど前（江戸時代）から明治中期まで、日和田高倉地区に人形浄瑠璃一座が存在し、活躍していたが、人形浄瑠

璃は伝承されなかった。かつての民俗芸能を復活し、伝えていくことができなかつたのかと考えたのが井上さんである。



新しく新調された高倉人形

平成二十九年福島市内の小中学生を対象に「人形浄瑠璃ワークショップ」が実施され、発表会が開催されることを知った井上さんは見学に出向き、そこで指導に当たっていた「八王子車人形西川古柳座」と「さつぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座」の方々に出会い、日和田での指導をお願いしたことがきっかけである。

「住民の皆さんが、自分の地域には全国に誇れる文化があることを知ること。そして、人形浄瑠璃に直接かかわる人材育成ができないかを考えながら進めてきました。」

その後、「復活！高倉人形プロジェクト実行委員会」が立ち上がり、日和田公民館とともに、人形浄瑠璃ワークショップを開催。地元小・中学生と有志による稽古が行われている。平成三十年の第一回発表会は、

生涯学習推進のために！

「地域の皆さんが、日和田町の歴史に興味を持っていただく機会づくり、そして、その学びを活用できる足がかりをつくるように工夫していきます。」

と、これからの抱負を語る井上さん。「日和田郷土カルタ」を活用し、カルタ大会を毎年開催している。郷土史会の皆さんに協力してもらい、カルタの会を立ち上げ、学校などへの出前講座も行っている。郡山市立日和田公民館は、これからも生涯を通じて、学び、その成果を活用できる機会を提供し続けていく。



解説付きの「日和田郷土カルタ」

